

# 孤独死問題を考えよう

来月、新宿でシンポ

高齢化が進み孤独死も起きている大規模な都営住宅・戸山団地を抱える新宿区で、孤独死を考えるシンポジウム「『無縁社会』から『人と人をつなぐ』社会を目指して」が九月十八日に開かれる。少子高齢化が進む一方で地縁、血縁が崩壊する中、孤独死を防ぐためにはどうすればいいか、自分に何ができるかを話し合おう。

戸山団地で携帯電話を使った見守りで孤独死防止に取り組むNPO法人「人と人をつなぐ会」の本庄有由会長らが講演。パネルディスカッションでは、高齢化する団地を調査した檜原真二・北九州市立大教授や、亡くなった人の部屋のクリーニングをする会社の社長、看護師ら、高齢者や障害者にかかわる人たちがそ

## 人と人つなぐ社会目指し

それぞれの立場で発言する。

命に関する問題の啓発団体「いのちのフォーラム」と「人と人をつなぐ会」が六月に続いて企画した。フォーラムの中下大樹代表(三宅)は「人がたくさんいる大都会で死後何日も放置されている人がいるのは、人とつながっていないから。あらゆる方法を使って人と結び付けることを考えるべきだ」と訴える。実家が地元の寺院で、孤独死した人の遺骨引き取りなどの相談に応じている。昨年は四十件も受けたが、「孤独死問題はまだ認知されていない。ますます多くの人に知ってほしい」と話す。

シンポジウムは午後一時から淀橋教会(百人町)で。資料代五百円。問い合わせ、申し込みはいのちのフォーラム 電080(1138)19711へ。